



第18回

さくらサミット

in せんぼく

みくら・^{*}景観

プログラム

平成21年7月11日(土)
角館交流センター・多目的ホール

主催／秋田県仙北市

Contents

ごあいさつ	2
シンボルマーク・憲章・桜里園ネット	3
開催地・テーマ一覧	4
スケジュール	5
講師プロフィール	6
サミット加盟自治体紹介	7
北海道新ひだか町	8
宮城県柴田町	9
福島県富岡町	10
茨城県日立市	11
群馬県前橋市	12
埼玉県北本市	13
埼玉県幸手市	14
東京都北区	15
新潟県新発田市	16
新潟県上越市	17
長野県伊那市	18
岐阜県本巣市	19
奈良県吉野町	20
鳥取県南部町	21
島根県益田市	22
島根県雲南市	23
長崎県大村市	24
熊本県水上村	25
宮崎県日南市	26
秋田県仙北市	27

ごあいさつ

仙北市長 石 黒 直 次



「第18回さくらサミット in せんぼく」へようこそおいで下さいました。春爛漫の桜でつまれた仙北市を満喫いただけないのが残念であります。心から歓迎申し上げます。

また、遠方よりご参加いただきました加盟自治体の皆様には、準備の段階から何かとご協力いただき厚く御礼申し上げます。

このサミットは、桜をまちのシンボルとし、まちづくりを推進する自治体が連携して、ともに発展することを目的に開催されてまいりました。

昨今の急変する社会情勢の中、加盟自治体全てが集うことも難しいのが実情ですが、このような時こそお互いに交流を通して学び合い、それぞれが活気を取り戻せるようなサミットにしてまいりたいと思います。

さて、本市には、重要伝統的建造物群保存地区を中心に162本の国指定天然記念物のシダレザクラ、国「名勝」桜木内川堤のソメイヨシノ、また田沢湖高原や田沢湖畔を飾る桜、伝統工芸「樺細工」の原材料となる山桜などがあり、桜が彩る独自の景観を形作っています。いずれも地域の誇りとして「仙北市の花」として守り育てられてきたものです。

桜木内川堤のソメイヨシノには、地元角館中学生により施肥活動が毎年続けられており、今年で22回目を迎えました。既に70年を優に超えた老木ながら、毎年見事な花を咲かせております。

今、少子高齢化や社会状況の変化から、従来の自治体の姿を保つのが難しい実情にあります。「さくらが彩る個性ある町並み」「さくらのある美しいふるさと」をいつまでも守り残していきたいという願いから、今回のサミットのテーマを「さくら・景観」としました。各地の様々な問題と取り組みなど幅広く交換し合い、心のよりどころとするまちづくり・景観づくりにつなげてまいりたいと考えております。

前回、第17回さくらサミットは長崎県大村市で開催されました。大村市と本市は今年姉妹都市提携30周年を迎えます。この記念すべき年に、第18回さくらサミットを開催できますことは、大変意義深く感じております。

最後になりますが、今サミットを開催するに当たり、コーディネーターの篠田伸夫先生を始め、関係各位のご協力に感謝申し上げますとともに、本日ご参加いただきました皆様のご健勝とご多幸を祈念しまして、ごあいさつと致します。

平成21年7月11日

さくらサミットシンボルマーク



さくらサミットのシンボルマークは、長野県高遠町で開催された第 2 回さくらサミットで採択されました。地球をあらわす円と桜の花びらで構成され、全体として人をイメージ化しています。人と人、まちとまちから始まるサミットの連帯・協力・調和が、グローバルな広がりを見せ、末永く継続していくことを表現するシンボルとして制作されたものです。

さくらサミット憲章 (平成元年 9 月 22 日制定)

Success

成功

第 1 条： 今後ともさくらサミットを開催し、サミットとサミットに参加するそれぞれの自治体のまちづくりを成功させるため互いに取り組みを進めます。

Approach

接近

第 2 条： 「21 世紀のまちづくり」という目標を限りなく実現に近づけるため、相互に連携、協力しあって花を咲かせることが出来るように努めます。

Keyword

言葉

第 3 条： まちづくりの共通標榜である「桜」をキーワードとして「桜」に関する人や物の交流、情報の交換を行い、新しいまちづくりの手がかりを見出します。

Unity

調和

第 4 条： 文化、教育、福祉、産業、観光そして災害対策などにおいて、相互の連携、協力をとり、調和のとれたまちづくりを行うよう心がけます。

Relation

縁

第 5 条： 「桜」によって結ばれた縁を大切に、お互い友好を深め、21 世紀に向かって前進していきます。

Agreement

合意

第 6 条： 共通の目標に向け、ふれあいと連携を築き、それぞれの自治体の進展と住民の生活文化向上に努めることに合意します。

桜里園 (オリオン) ネット

平成 18 年 1 月に開催された「第 16 回さくらサミット in 富岡」において、サミット加盟自治体の連携強化・情報交換の促進のために各自治体の WEB サイトを結ぶ「桜里園 (オリオン) ネット」を構築することが承認され、立ち上がりました。さくらサミット加盟自治体へのとびらとして活用されています。

◆桜里園ネット URL

http://www.gyosei.co.jp/home/company/jigyousei_create_sakura02.html

さくらサミット開催地・テーマ一覧

	開催地	開催日	サミットテーマ
第1回	島根県木次町	昭和63年4月11日(月)	“桜”によるまちづくりと地域間交流
第2回	長野県高遠町	平成元年9月22日(金)	桜によるまちづくりと地域活性化
第3回	群馬県鬼石町	平成2年11月15日(木) 16日(金)	桜による地域開発
第4回	秋田県角館町	平成3年4月30日(火)	桜による産業づくりと文化
第5回	長崎県大村市	平成4年4月4日(土)	桜をめぐる観光と交通
第6回	奈良県吉野町	平成6年4月21日(木)	さくら文化の醸成
第7回	高知県佐川町	平成7年4月6日(木) 7日(金)	桜に憩う、桜を楽しむ
第8回	北海道静内町	平成8年5月9日(木) 10日(金)	さくらサミットからの桜情報の発信
第9回	新潟県上越市	平成9年4月13日(日)	桜のまちづくりと住民参加
第10回	東京都北区	平成10年4月5日(日)	さくらがつくる歴史と文化 —わがまちの桜—
第11回	宮崎県北郷町	平成11年4月4日(日) 5日(月)	人にやさしく桜にやさしい環境づくり
第12回	埼玉県幸手市	平成12年4月9日(日) 10日(月)	幸せの手でつかむさくらの未来
第13回	茨城県日立市	平成13年4月7日(土)	桜と語るさくらの未来 ～元気さくらとネットワーク
第14回	岐阜県根尾村	平成14年5月18日(日)	さくらと歩む地域の未来
第15回	熊本県水上村	平成16年9月30日(木) 10月1日(金)	桜から桜まで ～ツーリズムと通年型観光～
第16回	福島県富岡町	平成18年1月26日(木) 27日(金)	～桜でひとつになる瞬間～ 未来への架け橋
第17回	長崎県大村市	平成19年4月14日(土) 15日(日)	わがまちの桜とまちづくり
第18回	秋田県仙北市	平成21年7月11日(土) 12日(日)	～さくら・景観～

スケジュール

7月11日(土)

さくらサミット 【会場:角館交流センター・多目的ホール】

- 13:00 開 場
13:30 オープニング・開会あいさつ
13:45 サミット全体会議「さくら・景観」
- 15:35 共同宣言採択・次期開催地引継ぎ
全体会議閉会
(休 憩)
15:50 報告「文化財としてのサクラを引き継ぐ」
講師：黒坂 登 氏 (樹木医)
16:10 記念講演「ふるさとのけしき」
講師：塩野 米松 氏 (作家)
16:50 閉 会

～同時開催～

- さくらサミット加盟自治体ポスター・パンフレット展
- サクラ樺染めサークル作品展示
- 長崎県大村市姉妹都市提携30周年記念 大村物産展
- 小松ひとみ(夢・咲 案内展 桜と可憐な花々)写真展

-
- 18:30 交流会 【会場：グランデールガーデン大安閣角館】

7月12日(日)

- 9:00 市内見学会
仙北市角館伝統的建造物群保存地区など
- 11:00 終了・解散

講師プロフィール

コーディネーター

篠田 伸夫 しのだ・のぶお

1943年鳥取県生まれ。67年京都大学卒業後、自治省入省。青森県地方課長、出雲市助役、消防庁救急救助室長を経て、88年に岐阜県総務部長兼博覧会推進局長として「ぎふ中部未来博覧会」を成功に導く。その後、自治省振興課長、東京都総合計画部長、岐阜県副知事、消防庁次長、救急振興財団副理事長、全国町村議会議長会事務総長などを歴任。現在、全国仮設安全事業協同組合専務理事、NPO法人救急ヘリ病院ネットワーク副理事長。「第10回さくらサミット in 北区」より、コーディネーターを務めている。



記念講演 講師

塩野 米松 しおの・よねまつ

1947年秋田県角館生まれ。東京理科大学卒業。聞き書きの名手で、失われゆく伝統文化・技術の記録に精力的に取り組んでいる。2003年、これまでの作家活動を讃え、国際天文連合より小惑星11987にYONEMATSUの名が授与された。92年に「昔の地図」で第107回芥川賞候補。以降、93年「オレオレの日」、94年「空っぽの巣」、96年「ペーパーノーチラス」と計4回候補に挙がる。



報告 講師

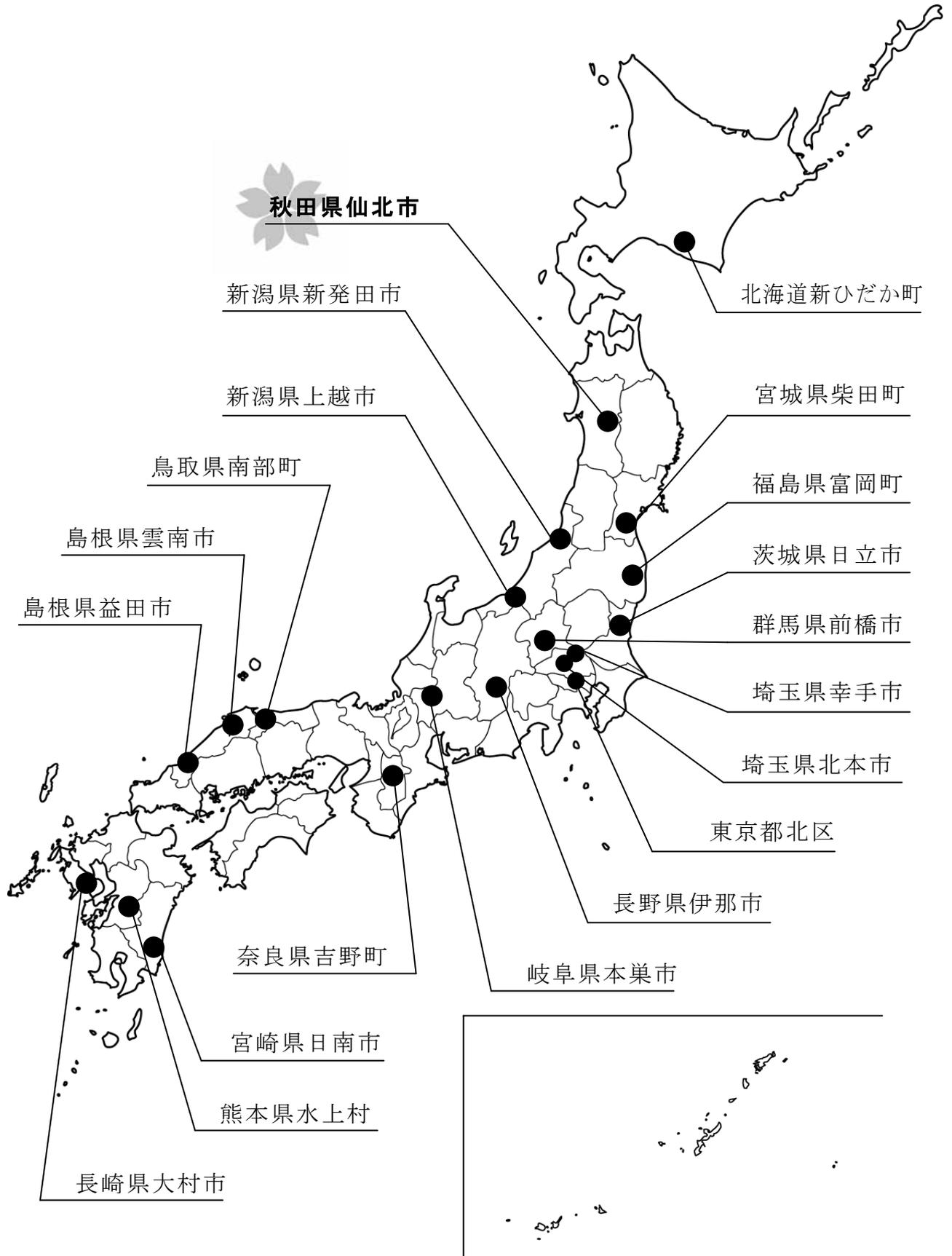
黒坂 登 くろさか・のぼる

1967年旧角館町役場に勤務。公立角館総合病院勤務を経て、農政課林務係に。「桜」と出会う。90年商工観光課に移り「桜係」となり、97年から教育委員会文化財課で桜を担当。通算19年にわたって桜に携わる。96年12月1日樹木医取得。2008年、財団法人日本さくらの会より「さくら功労者」表彰。

09年3月31日をもって退職。



サミット加盟自治体紹介



北海道 新ひだか町

まちの概要

『新ひだか町』は、平成 18 年 3 月 31 日にそれまでの「静内町」と「三石町」が合併して新たに誕生した町である。

新ひだか町は北海道の南東部日高支庁館内の中央に位置し、日高随一の盛観さをもつ日高山脈を背に雄大な太平洋を一望でき、温暖で緑あふれる自然に恵まれた、産業、経済、文化が発達した日高地方の中核都市である。

また、国内でも有数の馬産地であり、ダービー馬ウイングチケット、タニノギムレットをはじめ、現在も活躍中のコスモバルク、牝馬 2 冠のカワカミプリンセス、牝馬 5 冠のウオッカなど、数多くの名馬を輩出している。

さくらの概要

約 3,000 本の桜が直線で 7km にもわたって咲き誇る一本道、二十間道路。そのスケールは日本屈指である。左右の並木の幅がちょうど二十間(36m)あることからそう名付けられ、日本を代表する桜の名所として「日本の道 100 選」や「さくら名所 100 選」、「北海道遺産」にも選定されている。



かつてこの地にあった宮内省の御料牧場を視察する皇族の行啓道路として造成されたのがはじまりで、1916（大正 5）年から 3 年をかけて近隣の山々の桜が移植された。

桜はほとんどが「エゾヤマザクラ」一種であることから、開花時期の 5 月上旬には競うかのように一斉に花が咲く。

さくらについての考え方、今後の施策、整備について

町のシンボルの一つとして長年に亘り愛され続けた二十間道路の桜は、ほとんどが樹齢 90 年を超える高齢樹であるため、樹勢の衰えが随所に見受けられる。そのため、樹勢回復と延命治療が最大の課題であると位置づけており、今もなお、調査・治療を継続的に実施している。

今後は桜並木管理台帳の内容を一新し、これまで以上に桜一本一本と向き合いながら保護・保全に努めていかなければいけないと考えている。また、多くの人の善意により今もなお増え続ける「さくら基金」は、「二十間道路桜並木」を後世に残すべき貴重な財産として守り続けるため、今後の有効的な活用方法を現在検討中である。

◇新ひだか町 : <http://shinhidaka.hokkai.jp/>

宮城県 柴田町

まちの概要

仙台駅から南に 25km に位置し、町の総面積は 53.98 k m²、人口は 39,496 人の県南最大規模の町。

柴田町は、藩政時代、伊達騒動で知られる原田甲斐と名門柴田家の城下町として栄えた「船岡」と、奥州街道の 64 番目の宿場町として栄えた「槻木」が昭和 31 年に合併して誕生した町である。

さくらの概要

柴田町には、日本のさくら名所 100 選に選ばれた「船岡城址公園」と「白石川堤一目千本桜」があり、東北有数の桜の名所として知られている。毎年「しばた桜まつり」が開催され、県内外から 20 万人を超える花見客で賑わう。



毎年「しばた桜まつり」が開催され、県内外から 20 万人を超える花見客で賑わう。

「船岡城址公園」では、1,000 本を超える染井吉野桜が咲き誇り、満開時には全山が桜色に染まる。

「白石川堤一目千本桜」は、町から大河原町に至る総延長 8km に約 900 本の染井吉野桜が植えられている。

さくらについての考え方、今後の施策、整備について

およそ 100 年の歴史をもつ桜の景観を町の誇りとする「柴田さくらの会」をはじめとする町民各位のご尽力により、町内のいたるところに桜の植栽事業を展開してきました。このことにより数的には充足された観があります。

今後は、この景観を後世に承継していく施策の展開が喫緊の課題であると考えます。例えば、桜の古木をどうするのか、植え替えするとなれば、ソメイヨシノに拘るべきか、町民の各種希望を取り入れて桜を植栽したら良いのか等の意見を踏まえ、町民と協働により早期に実施したいと考えます。

◇柴田町 : <http://www.town.shibata.miyagi.jp/>

福島県 富岡町

まちの概要

富岡町は、福島県浜通り地方の中央部に位置し、東は広大な太平洋が広がり、西は緑豊かな阿武隈山系に囲まれた町である。人口は約 16,000 人。町内を二分して太平洋に注ぐ富岡川や阿武隈山系を流れる滝川溪谷、大倉山、麓山などの山々、断崖絶壁の海岸線、離れ島が散在する浜辺など大自然の宝庫である。四季を通じてのぎやすい温暖な気候に恵まれ、降水量も比較的少なく、農作物の栽培に適した暮らしやすい地域。福島第二原子力発電所より首都圏へ電気を供給している。「電気のふるさと」でもある。

さくらの概要

富岡町の夜の森の桜は、よ もり 明治 30 (1900) 年、はんがいせいじゅ 半谷清寿氏が荒野だったこの地を開拓のため入植したとき、宅地周辺に 300 余本のソメイヨシノを植えたのが始まりとされている。

その後、清寿氏の次男・六郎氏や地域住民に受け継がれ、花の町へと生まれ変わった。樹齢 100 年を超える桜も含めて、約 2.5km 続く桜並木となっている。平成 2 年には、(財)日本さくらの会による「別選さくら名所」に選定された。

これらを含め、現在、町内には約 2,400 本の桜が咲き乱れる。

さくらについての考え方、今後の施策、整備について

町観光協会などが主となり、桜をキーワードとした桜事業を展開している。春の桜まつりでは「さくら YOSAKOI」を同時イベントとして取り組み、桜の保護・保全を目的とした協力金を駐車場利用者からいただいている。また、桜の剪定枝や支障木を原料として「桜染め」に組み込み、冬場の桜の利活用として枯葉プールなどの「枯葉イベント」を開催し、町内の子供達に桜とのふれあいを提供している。今後も町民。観光客参加型の桜還元事業を展開し、桜の町「富岡」の PR に努めたい。



- ◇富岡町 : <http://www.tomioka-town.org/>
- ◇富岡町観光協会 : <http://www.haruru-urara.com/home.html>
- ◇富岡町商工会 : <http://www.pulapula.net/>



まちの概要

太平洋と阿武隈山地に囲まれた自然豊かなまちであり、日立鉱山から発展した、わが国を代表する産業都市である。

また、伊師浜国民休養地は、ウミウの捕獲地として知られ、長良川をはじめ全国の鵜飼地にウミウを供給されている。

特色としては、市民運動が盛んで福祉事業や生涯学習、地域コミュニティからさくらのまちづくりまで、多くの団体が幅広く活動し、「地域の力で拓く 人・まち 輝く新生日立」を基本計画の目標としている。

さくらの概要

大正初め、煙害で荒廃した山々に、日立鉱山が「大島桜」など煙害に強い苗木を大量に植林したのが始まりとされる。桜のトンネルをつくる平和通やかみね公園は「日本のさくら名所100選」に選ばれている。

また、十王パノラマ公園には35種約400本の桜が植えられており、平和通り、かみね公園と併せて日立さくらまつりの会場となっている。

本市特有のさくら品種として、平成18年8月に「日立紅寒」が種苗法に基づく品種登録がされた。



さくらについての考え方、今後の施策、整備について

日立のさくらは、市民・企業・行政が鉱山の煙害をきっかけにまちづくりに取り組んできた表れであり、歴史的に築かれてきた大切な資源であるさくらを次世代に伝えていくために官民一体となり、事業を推進していきたい。

また、日立固有の品種として登録された「日立紅寒桜」についても、それを活かした事業を検討しながら、苗木の育成を推進していきたい。

主な整備等

- ・ テングス病枝除去事業の実施
- ・ 日立紅寒桜の育成の推進

◇日立市 : <http://www.city.hitachi.ibaraki.jp/>

◇日立市観光協会 : <http://www.mito.ne.jp/~h-kanko/>

群馬県 前橋市

まちの概要

群馬県のほぼ中央にある上毛三山の雄「赤城山」の山頂までを市域とする前橋市は、清らかな水をたたえた利根川や広瀬川が市内を流れる、緑豊かで自然に恵まれた都市である。

群馬県の県都として発展し続けてきた本市は、平成 21 年 4 月、県内初の中核市として新たなスタートを切った。

萩原朔太郎をはじめ多くの詩人を生み出したことから「近代詩のふるさと」ともいわれ、「水と緑と詩のまち」をキャッチフレーズ^{うた}にしている。

さくらの概要

赤城南面千本桜は、(財)日本さくらの会「日本のさくら名所 100 選」にも選ばれた名所であり、毎年 4 月に開催される桜まつりでは、約 2km に渡ってできる桜のトンネルを見に多くの観光客が訪れている。

また、赤城南面千本桜に隣接して整備された「みやぎ千本桜の森公園」には、12 種、約 400 本の桜と約 9 万株の芝桜が植えられ、桜と芝桜を楽しむことができる。

さくらについての考え方、今後の施策、整備について

赤城南面千本桜は、戦後の荒廃した山林に豊かな緑を復活させようと、地域住民が一丸となって昭和 31 年からソメイヨシノを植栽した桜並木である。植栽されてから 50 年以上経過していることから将来にわたってこの地を桜の名所として継承するため、隣接地にみやぎ千本桜の森公園を整備してきた。

公園内の桜は、千本桜と同様、地域住民が中心となり植栽や管理を行っているほか、平成 19 年からは市民に親しまれる公園づくりの一環として、「芝桜ひろげたい運動」を展開し、毎年桜まつり期間中に 1 万株の芝桜が植えられている。そして、地域住民による公園愛護会が組織され、除草作業などの管理も市民の手により行われている。

◇前橋市：

<http://www.city.maebashi.gunma.jp/>

◇前橋観光コンベンション協会：

<http://www.maebashi-cvb.com/>



埼玉県 北本市

まちの概要

北本市は、東京から 40～45km にあり武蔵野の面影を残す雑木林が点在する緑豊かな住宅都市である。昭和 46 年 11 月 3 日に埼玉県内 33 番目の市として誕生し、まちづくりの方針に「ずっと住み続けたいまち、きたもと」を掲げ、経済・教育の活性化、便利で公正な行政サービスの提供、子育て支援の充実、自然環境の保全などの取組みを進めている。

さくらの概要



北本市の桜には、日本五大桜の一つで、大正 11 年に国の天然記念物に指定された樹齢約 800 年の「石戸蒲ザクラ」（他に福島県三春の滝ザクラ、山梨県武川村の山高神代桜、静岡県富士見市の狩宿の下馬ザクラ、岐阜県本巣市の根尾谷淡墨桜）、市の天然記念物として指定され、樹齢約 200 年の「高尾エドヒガンザクラ」、ソメイヨシノの「石戸城ヶ谷堤」など桜の名所が数多くあり市民に親しまれている。平成 7 年には石戸蒲ザクラの後継樹や北本市に転入された方々の故郷から送られた 11 種 182 本の様々な種類の桜を植栽した「高尾さくら公園」を開設し、毎年市内外から多くの人々が訪れている。

また、市内の雑木林には、大宮台地における全ての自生種、ヤマザクラ、エドヒガンザクラ、シダレザクラ、ウワミズザクラ、イヌザクラが今なお健在に自生しており、街路樹として八重桜や企業内の緑地にソメイヨシノなど多くの桜が植栽されている。

さくらについての考え方、今後の施策、整備について

イメージアップ推進のため、市の花である桜を、市民一体となって魅力あるまちづくりを目指す指針として「観せる」「伝える」「創る」という 3 つの展開方針に沿って事業を推進する。また、石戸蒲ザクラは推定樹齢 800 年という高樹齢で樹勢が低下しており、樹勢維持のための施肥・外科的処置を行うとともに、市民配布したクローン技術を用いた後継樹の育成管理を推し進めていく。

◇北本市 : <http://www.city.kitamoto.saitama.jp/>



埼玉県 幸手市

まちの概要

幸手市は、埼玉県の北東部に位置し、東京まで約1時間、人口54,930人の緑豊かな住宅都市として発展している。江戸時代は日光街道の宿場町として栄えた。郊外には豊かな田園地帯が広がり、米作が多く行われている。今後予定される首都圏中央自動車連絡道のインターチェンジ建設に伴い、新たな産業基盤の整備が期待されている。

さくらの概要

市内北部の権現堂堤には約1,000本の桜が1kmに渡って連なり、周辺に広がる菜の花畑とあわせて、春には多くの花見客で賑わっている。最近では都心方面からのバスツアーが増加している。この桜を保全するために平成9・10年に実態調査を行い、平成12年度から毎年、桜保護工事を行っている。また、地域住民により組織されたNPO法人幸手権現堂桜堤保存会による保全活動も活発に行われている。



さくらについての考え方、今後の施策、整備について

NPO法人幸手権現堂桜堤保存会が主体となり、権現堂堤の環境整備を行っているほか、アジサイやヒガンバナなどを活かして、年間を通じた集客に努めている。これまで「さくら10万本運動」として桜の植栽や配布に力を入れてきたが、平成17年度から「ふるさとの桜を活かす運動」として、桜の維持管理に重点を置き、桜の保護や手入れを主体に事業を進めている。



◇幸手市：<http://www.city.satte.lg.jp/>

◇幸手市観光協会：

<http://www.satte-k.com/>



まちの概要

東京の北の玄関口に位置し、平成10年「第10回さくらサミット in 北区」が開催され、全国にさくら文化が発信された人口約32万人のまち。

桜の名所地「飛鳥山公園」に同年全国初の公・民営の3つの博物館が同時に開館したほか、東京初の防災センターや、旧古河庭園、桜の名所の岩淵水門などを有する。

さくらの概要

東京の桜の名所の一つである飛鳥山公園は、徳川八代将軍吉宗の肝いりで1,270本もの「さくら」が植樹され、江戸時代の庶民の花見場所として全国的に知られた。歌川（安藤）広重や葛飾北斎のように、世界的な評価を受けている絵師が、飛鳥山の「さくら」を多数、錦絵に残している。

戦後数度の大規模改修が行われたが、現在では飛鳥舞台や井桁噴水など桜と水と自然石の調和による趣豊かな歴史公園として評価され、春には多くの花見客が訪れている。

さくらについての考え方、今後の施策、整備について

北区のさくらの名所「飛鳥山公園」は、徳川第八代将軍吉宗時代に植栽されたもので、交通の便が良いこともあって、都内はもとより近県からも多くの花見客が集まり、花見時期は大変賑わう。

北区では「花*みどり」・安らぎ戦略を掲げ、区民との協働により区民主体の身近な公園づくりを進めるとともに、国公有地などを活用して区民がうるおいとやすらぎを感じ、憩いの散策を楽しむことのできる季節感あふれる公園づくりに努め、魅力的な都市空間を整備し、花とみどりのまちづくりを推進している。



◇北区（さくらサミット）:

<http://www.city.kita.tokyo.jp/misc/kanko/sakurasamit/sakurasamitindex.htm>

新潟県 新発田市

まちの概要

新発田市は、県都新潟市に隣接する阿賀北の中核都市で、北西には白砂青松と形容される美しい海岸が広がり、南東には磐梯朝日国立公園、胎内二王子県立自然公園がある。

城下町の歴史と文化、全国的にも有名な月岡温泉、山から海までの豊かな自然など、たくさんの魅力を持つ新発田市は、「愛せるまち、誇れるまち、ふるさと新発田の創造」を目指し、これからも発展していきたい。

さくらの概要

櫛形山脈の主稜のひとつ大峰山は、ヤマザクラの地として名高く、昭和9年には「大峰山椽平サクラ樹林」として天然記念物に指定された。この桜は何万年も前に自生したものが老木となり枯れ、その根元から若木が出、それを繰り返すことででき上がった桜樹の原始林で、長い年月の間に幾百種の変種が生まれ、現在40余種・約千本が群生、4月下旬から5月中旬に満開の姿を見せてくれる。また、櫛形山麓の5.2haの敷地に100種、約300本を植栽した「桜公園」を整備し、春には多くの方々が公園を訪れる。



そして、加治川堤には、長堤十里、40kmに約6000本が植栽され当時は日本一といわれた堤桜があった。この堤桜は、昭和41年・42年に連続で発生し大きな被害をもたらした羽越水害で、堤防決壊の一要因ということで河川改修に伴い全てが伐採された。その後、ぜひあの当時の姿を復元したいという声があがり、平成元年に旧建設省の「桜堤モデル事業」に認定、平成4年度から植栽を始め、最初のころに植えた桜樹は今、大きく育ちつつある。

さくらについての考え方、今後の施策、整備について

桜は当市の木に認定されており、新発田地域には新発田城址公園、加治川地域には大峰山、紫雲寺地域には加治川堤と市内各地に桜の名所が存在し、桜を利用したまちづくりを推進している。

加治川堤はかつて延長約12km、6千本が植樹され桜の名勝地として知られていたが、水害により全て伐採された。

現在、市・県・地元民間団体により以前の桜堤を復元させようと植樹が進められ、河川周辺の緑化整備を推進している。

◇新発田市：<http://www.city.shibata.niigata.jp/>

◇加治川商工会：<http://www.niigata-hi-system.com/kajikawa/>

新潟県 上越市

まちの概要

新潟県の南西部に位置する上越市は、その昔、越後国府が置かれ、古くから交通の要衝として栄えた長い歴史に育まれたまちである。戦国時代の名将上杉謙信公の居城であった春日山やゆかりの地をはじめ、多くの地域資源を有し雄大な日本海と豊穡の大地、四季折々の美しい山々に抱かれた豊かな自然と歴史文化にあふれている。

さくらの概要

ソメイヨシノを中心に約4,000本の桜が植えられている高田公園では、毎年見頃となる時期にあわせて観桜会を開催。ボンボリの明かりに照らし出され、お堀の水面に映る様は大変美しく、日本でも有数のものとして知られている。

その他市内には、公園や湖畔など桜の名所が数多くあり、4月前半から後半まで、各地で桜を楽しむことができる。

さくらについての考え方、今後の施策、整備について

上越市の木として定められている桜は、昔から地域住民にとって身近なものとして大切にされていることから、今後も桜の保護に努めていく一方で、毎年4月上旬から中旬に高田公園を会場に開催される「高田城百万人観桜会」は、上越市の観光の目玉として一番の集客を誇っている。特に夜のライトアップは幻想的な雰囲気醸し出し、多くの人を魅了していることから、夜桜を中心に今後も積極的な集客を図っていくこととしている。



◇上越観光ネット：<http://www.city.joetsu.niigata.jp/kankou/index.html>

長野県 伊那市

まちの概要

平成 18 年 3 月 31 日に伊那市、高遠町、長谷村が市町村合併し、人口約 74,000 人の新「伊那市」となった。

高遠城址公園の桜はもとより、中央アルプスと南アルプス、市内中心を流れる天竜川・三峰川などの雄大な自然を有し、「二つのアルプスに抱かれた自然共生都市」として、産業・観光の発展と自然環境との共生を目指している長野県南部の中核都市。

さくらの概要

明治の廃藩置県により高遠城が取り壊されたが、明治 8 年に有志の手で近くにあった桜の植樹が行われ高遠城址公園としての整備が始まり現在に至っている。この桜はタカトオコヒガンザクラというコヒガンザクラの一種で大木となり、花も赤みが強い特殊な桜で、約 1,500 本に及ぶ樹林は県の天然記念物に指定されている。

新「伊那市」となり、ソメイヨシノやコヒガンザクラを有する伊那公園や春日公園を始めとする桜の名所が市内各地に数多く存在している。



さくらについての考え方、今後の施策、整備について

伊那市では、日本一の桜の里づくりをめざしている。

市民の桜に対する思いやり、愛着心の醸成を図るため桜守協力のもと桜の整備や、市民による市内の植樹を拡大するとともに友好都市等と連携した桜の植栽を行っている。

また、市内三大公園の桜（高遠城址公園、伊那公園、春日公園）を結びつけ、ニーズにあった公園整備と周回するためのしかけや、市内に点在する桜の名木を観光資源化するべく、パンフレットの作成等を行っている。

今後は、桜の観光客をさらに増加するため、県外、海外に積極的に誘客活動を行う一貫として、外国語のパンフレット作成や看板整備、桜関連商品造成等滞在型の仕組みづくりを行っている。

◇伊那市観光協会 : <http://inashi-kankoukyoukai.jp/cms/modules/tinyd0/>

岐阜県 本巣市

まちの概要

平成 16 年 2 月 1 日に本巣町、真正町、糸貫町、根尾村の 3 町 1 村が合併して人口約 35,000 人の本巣市となった。

県都の岐阜市の北西に位置し、北は福井県と境を接する山間部から南は濃尾平野の中ほどの平坦部にいたる。南北に細長くて、北に高く南に低い地形となっている。

国指定天然記念物の淡墨桜がある旧根尾村を引継ぎさくらサミットに参加。

さくらの概要

樹齢 1,500 余年の淡墨桜は、継体天皇のお手植えの桜と伝えられる。

桜では日本一の巨木といわれ、日本のさくら名所 100 選にも選ばれた。

国指定の天然記念物、蕾のときは薄いピンク、満開にいたっては白色、散りぎわには淡い墨を引いたような色をおびるといわれる。

過去、幾度も枯死の危機に陥ったが、山桜の根継ぎによる回生手術や作家宇野千代氏ら各界の保護活動によって、現在も盛観を保ち、毎年 4 月上旬には全国から 20 万人もの観光客が訪れる。

さくらについての考え方、今後の施策、整備について

本年は淡墨桜への来場者に対し、アンケートを実施して一層のサービス向上へと繋げていく。

また、平成 21 年度には淡墨公園を整備する。



◇本巣市 : <http://www.city.motosu.lg.jp/>

奈良県 吉野町

まちの概要

吉野町は紀伊半島のほぼ中央に位置し、吉野杉や桧の美林に囲まれ、清流吉野川が町の中央を東西に流れる風光明媚な町である。一目千本と称される吉野山の桜を中心とした観光産業と、木材関連産業を基盤として発展してきた。南朝の哀史の里、山伏の宗教「修験道」の霊場としても名高く、数多くの人々が訪れている。



さくらの概要

4月上旬から中旬頃、山の尾根から谷にかけてシロヤマザクラを中心に約3万本が咲き乱れ、山全体をほんのり桜色に染め上げる。平安時代の古今和歌集にも詠われている吉野の桜は1000年の歴史があり、修験道の聖地として信者による献木が古くから行われ、大切に保護されてきた。

その桜に惹かれ、古の時代より多くの文人墨客が訪れ、その美しさをしたためている。また、平成16年7月吉野山が「紀伊山地の霊場と参詣道」の中核の一つとしてユネスコの世界遺産に登録され、観桜期には毎年約40万人の観光客が訪れる。

さくらについての考え方、今後の施策、整備について

吉野山の桜は、信仰の証として植え続けられ、現在は、財団法人吉野山保勝会や地元住民の奉仕によって維持されている。

近年、全国的に桜樹の樹勢の衰えが目立ち心配されているが、吉野山の桜も例外ではなく、ウメノキゴケに覆いつくされた木も目立ち、立ち枯れ被害に見舞われている。

昨年からは京都大学の調査チームが現地調査に入り、衰退の根本原因の分析や対策を進めている。

また、官民が共同して「吉野桜を守る会」が設立し、フォーラムやコンサートなどのイベントを通じて、吉野の桜の現状を広く訴えると共に、調査や管理・保護育成にかかる費用に充てるため「さくら募金」を設立し、支援をよびかけている。

地元先人達のためゆめぬ努力によって護られて来た吉野山の桜を護るために、地元はもとより吉野の桜を愛でる多くの人達にも桜の保全に関心をもっていただき、吉野山の桜の活性化が他の桜の名所のよき先例となるよう地道な努力を重ねていかなければならないと考えている。

◇吉野町 : <http://www.town.yoshino.nara.jp/>

鳥取県 南部町

まちの概要

鳥取県西部の島根県境に位置し、東西 12km、南北 17km、面積 114.03k m²を有する人口 12,210 人の町で、特産の富有柿・梨・いちじくの生産で有名。町内には、日本最大級のフラワーパーク「とっとり花回廊」があり、四季それぞれの花が一年中楽しめる数多くの人々が訪れている。

さくらの概要

法勝寺城山公園及び法勝寺川沿いの土手には約 3km にわたって続く桜並木がある。夜になりぼんぼりに灯りが灯ると浮かび上がった桜が川面に映し出され、何とも幻想的な雰囲気をかもし出し、多くの人々が訪れている。ソメイヨシノ約 1000 本。

さくらについての考え方、今後の施策、整備について

南部町には、法勝川土手を中心に約 700 本のソメイヨシノがあるが、50 年～60 年経っているため、病気も出てきている。

現在はボランティアグループで、てんぐす病の枝の除去など管理に尽力いただいているが、今後は専門家の指導を受けた管理や植栽、枯れ木の伐採が必要であると考えます。

町のシンボルであり、大切な観光資源である桜を守っていきたい。



◇南部町観光協会 : <http://www.town.nanbu.tottori.jp/kanko/>

島根県 益田市

まちの概要

益田市美都町は、島根県の西部、中国山地の嶺線に近い中山間地帯にあり、総面積 132.64 k m²の広さを持ち、全面積の 87%が林野で占められている。

人口は 2,700 人。美都温泉、みと自然の森、ひだまりパークみと、秦佐八郎記念館、双川峡、四つ山、金谷城山桜などの観光施設がある。

さくらの概要

金谷城山桜（かねだにじょうざんざくら）

種 類：エドヒガン

樹 齢：570 年

樹 高：15m

幹周り：6.67m

由 来：入船山城を築いた澄川氏が金谷の地に移り住んだ際に、城の出丸部分にあたる所に植えたと伝えられている。



さくらについての考え方、今後の施策、整備について

10, 000 本の植え付けされている桜木について病気などの対策を市のさくらの会と一緒に考えて取りくむ。

◇益田市 : <http://www.city.masuda.lg.jp/>

島根県 雲南市

まちの概要

雲南市は、島根県の東部に位置し、松江市、出雲市に隣接、南部は広島県に接し、先人たちが守り育ててきた多彩で魅力ある資源を保有している。豊かな森林や斐伊川の流れにみられる穏やかな自然、神話に象徴される銅鐸やたたら製鉄の歴史遺産、桜や蛍にみられる生命の多彩な輝きなど「生命と神話が息づく新しい日本のふるさとづくり」をキーワードに、地域資源を最大限活用したまちづくりを推進している。

さくらの概要

平成2年に（財）日本さくらの会より、「さくら名所100選」に選定された「斐伊川堤防桜並木」はヤマタノオロチ退治の舞台となった斐伊川の清流に沿って約2kmにわたる桜トンネルで、中国地方随一の名所としてその名を馳せている。

この斐伊川堤防の桜は、明治の終りごろから植えられ始め、市のシンボルとなっており、シーズンには多くの観光客で賑わう。

さくらについての考え方、今後の施策、整備について

雲南市では、ほかにも緑の桜「御衣黄」を始め、多くの桜名所があり、市民の関心も高い。平成17年には住民参加組織である「雲南市さくらの会」が結成され、会員募集や管理研修会が積極的に行われている。

今後ともさくらのまちづくりを雲南市全体で取り組み、市民共通の誇りとなるような展開を行いたいと考えている。



◇雲南市：<http://www.city.unnan.shimane.jp/>

長崎県 大村市

まちの概要

長崎県の中央部に位置し、西に大村湾、東に多良岳県立自然公園を臨む、東西 12km、南北 16km、総面積 126.33 平方 km を有する人口 91,709 人（H21.5.31 現在）の市。日本発のキリシタン大名大村純忠や天正遣欧少年使節などキリシタンの歴史遺産を活用し、観光立市を目指した取り組みを推進している。

さくらの概要

大村市には、「さくら名所 100 選」に選ばれた大村公園をはじめ、市内の公園、学校等の公共施設を中心にオオムラザクラ、クシマザクラ、ソメイヨシノなど 12,000 本程度の桜が植えられている。中でも、国指定天然記念物であるオオムラザクラは、八重桜の 2 段咲きで花卉の総数が 60～200 枚もある優雅な花で、里桜中の名花と言われている。大村公園では、桜、花菖蒲など、3 月 25 日から 6 月 20 日まで花まつりで賑わう。



さくらについての考え方、今後の施策、整備について

大村公園は、わが国近代公園の先駆者として知られる長岡安平が玖島城址に植えたことに始まり、桜の名所として有名になった。「さくら名所 100 選」に選ばれたのを契機に「さくらの街おおむら」を広くアピールするための植栽事業を展開し、平成 13 年度に「さくらの街おおむら推進委員会」を設置して、より一層のさくらの街の推進に向けての取り組みを行っている。今後、「サクラの里づくり」事業として、平成 34 年度までの計画で、市民と行政が一体となったさくらのまちづくりを推進していく。



◇大村市 : <http://www.city.omura.nagasaki.jp/>

◇大村観光ナビ : <http://www.omuranavi.jp/>

熊本県 水上村

まちの概要

熊本県の東南部、宮崎県との県境に位置し、総面積 192.11 k m²のうち、約 92% が森林に囲まれた人口約 2,600 人の村。日本三急流の一つ「球磨川」の源が、ここ水上村にある。

さくらの概要

昭和 35 年に村の中央部に完成した多目的ダム「市房ダム」の周囲約 14km に、修景事業として一万本の桜が植栽された。その後、昭和 59 年に始まった「くまもと日本一づくり運動」のなかで、当時の県知事であった細川護熙氏の提唱により、「日本一の桜の里づくり」が始まった。現在、住民総参加の桜の除草刈り、空き缶・ゴミ拾い等、住民一人ひとりの手で育てられている。また、「桜図鑑園」には約 80 種類の桜の木が植栽されており、観光面での整備がなされている。



さくらについての考え方、今後の施策、整備について

昭和 35 年に完成した水上村市房ダム湖。完成後、当初 1 万本の桜の木がダム湖に植栽され、村民ボランティアの管理等で現在では 2 万本もの桜で覆いつくされている。この間、ダム湖周辺には桜図鑑園が整備され、約 80 種、約 100 本の桜を楽しむことができる。また、ダム湖周辺の道路も整備されてはきたが、今後、更なる整備を図るため、市房ダム湖周辺整備計画を策定していく。

◇水上村 : <http://www.vill.mizukami.lg.jp/>



宮崎県 日南市

まちの概要

日南市は、宮崎県の南部に位置し、東に日光灘を臨み、西は都城市・三股町、南は串間市、北は宮崎市に隣接している。宮崎市から日南市を経て鹿児島県に至る延長 112km は全国有数のリアス式海岸で、日南海岸国定公園の指定を受けている。

さくらの概要

昭和 56 年から桜の植樹活動を実施している。植栽は自治公民館や各民間団体、誘致企業等の協力のもと、公共施設周辺や沿道など約 18,000 本程度の植栽を完了している。

中でも花立公園には 10,000 本の桜が植栽されており、多くの観光客が訪れる。12 月には桜愛好家が開発した「日南寒桜 1 号」が早咲きで開花する。他には竹公園（約 3,000 本）もあり、春の観光名所となっている。

さくらについての考え方、今後の施策、整備について

花立公園では毎年、さくら祭を実施し、県内外から多くの方に来園して頂いている。遊歩道や駐車場、道路の整備を行い、今まで以上に利用しやすくなっている。また、日南市（旧北郷町）は 2008 年 4 月に森林セラピー基地として認定を受け、様々なイベントを行い、多くの来訪者に来て頂いている。海、山、川など自然豊かな資源と歴史ある城下町等を活かし、今後は、民間団体と協力のもと、新たな観光名所のツアー等を構築していきたい。



◇日南市 : <http://www.city.nichinan.lg.jp/>

秋田県 仙北市

まちの概要

仙北市は、秋田県の東部中央に位置し、岩手県と隣接している。平成17年9月20日に田沢湖町、角館町、西木村の旧3町村が合併し形成された。仙北市のほぼ中央に水深が日本一の田沢湖があり南に秋田こまちの産地仙北平野へと開けている。地域の約8割が森林地帯で、玉川温泉や乳頭温泉郷と温泉にも恵まれている。角館町地区には、元和6(1620)年の町並みが現存し、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。山桜の樹皮を原材料とした伝統工芸樺細工でも知られている。

さくらの概要

仙北市角館町の国指定2件の桜は、雪に閉じ込められた長い冬の終わりの証として多くの人々に春の訪れを見せてくれる。

武家屋敷一帯のシダレザクラは藩政時代以来の歴史的記念物であり、今ではこの一帯の不可欠な景観構成要素となっており、花の時期はもちろんだが、四季を通じ歴史的風趣を添えている。

一方、まちの中央部を流れる檜木内川堤のソメイヨシノの桜並木は、昭和9年今上陛下の誕生を祝い記念植樹したものである。樹齢約70年2kmの桜並木には、老木の桜が今も壮観な花のトンネルを見せている。



さくらについての考え方、今後の施策、整備について

伝建群に選定されている武家屋敷の修理風景や国指定の角館のシダレサクラや、国名勝の檜木内川堤のサクラ他の保存管理等、市内の文化財を守りながらその情報を発信することにより新規の方はもとより、リピーターの方に何度も訪れていただけるような安らぎを与えたい。また、市内の標高差による開花推移によって、それぞれの景観を長く楽しんでいただけるよう努めたい。

◇仙北市 : <http://www.city.semboku.akita.jp/>

